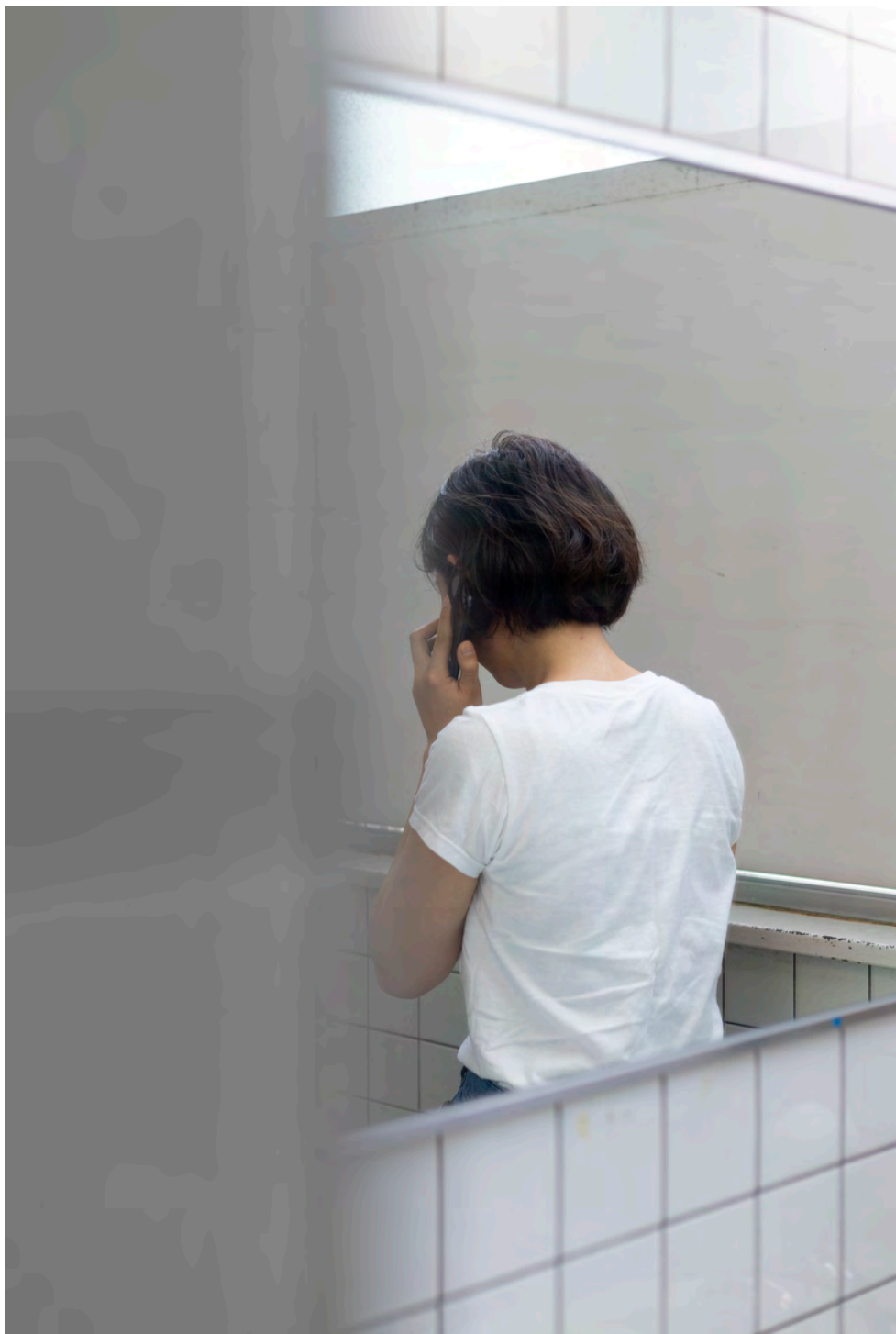


避雷針と顛末
Lightning Rods and Circumstances



澤田華
Hana Sawada

避雷針と顛末

Lightning Rods and Circumstances

うるさい店内に充滿する人々の会話や、静かな車内に響く誰かの話し声が気になって仕方なくなったとき、耳に入ってくる音を文字に起こして、ノートに記録してみることにした。

無理に避けたり封じたりするのではなくて、呼び込む姿勢をとることで、健やかな気持ちを守ることにしたのだ。

ただし、その場から離れたあと、メモは手元に残り続ける。

ページを破いて捨ててしまいうちは容易いけれども、今日の前に確かにあるものを、簡単になくくにするのは憚られた。

それは、あときイヤホンを突っ込んで耳を塞いではまわなかったのと同じことだ。そういう訳でとりあえず、持て余したこのメモに目を凝らしてみることにした。

Whenever I couldn't help but take notice of a conversation in a crowded noisy shop or someone's voice reverberating inside a quiet train carriage.

I transcribed the sounds that I heard in my notebook.

Rather than intentionally avoiding or blocking out the sound,

I adopting a welcoming attitude, and tried to maintain a healthy feeling.

However, I held on to my notes even after leaving the place.

It would have been easy just to rip the pages up and throw them out,

but I hesitated to take such a simple approach to something that was right there in front of me.

That would have been as the same as choosing not to stick earphones in my ears to mute the sound at that time.

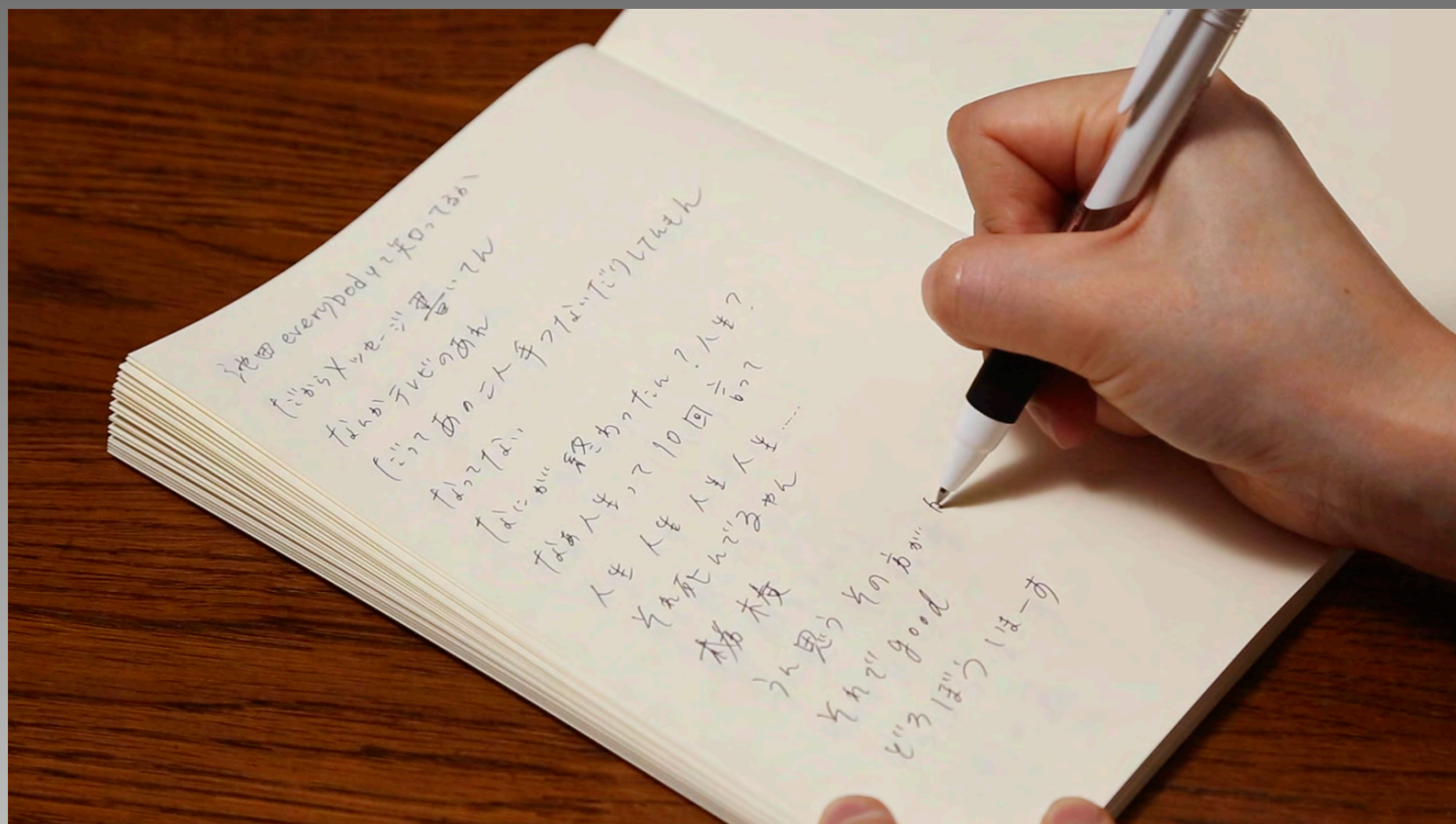
For the time being at least, I strained to decipher my unmanageable notes.

本展は二〇二〇年八月に広島市現代美術館で開催された「夏のオープンラボ 澤田華 360°の迂回」での発表作品《避雷針と顛末》をもとに、一部新作を加えて再構成したものです。

また、ギャラリー・パルクの堀川新文化ビルディングへの移転後初の展覧会となります。

澤田華

Hana Sawada



Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2022年4月2日(土)から29日(金・祝)まで、澤田華による個展「避雷針と顛末」を開催いたします。

2016年に京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程を修了した澤田華(さわだ・はな/1990年・京都生まれ)は、2017年の「未来の途中の星座-美術・工芸・デザインの新鋭9人展」(京都工業繊維大学 美術工芸資料館 / 京都)への選抜参加、公募企画展「1floor2017『合目的的不毛論』」(神戸アートビレッジセンター / 兵庫)への出品、「第40回写真新世紀」の優秀賞受賞をはじめ、2019年には「あいちトリエンナーレ2019」(愛知県美術館ギャラリー / 愛知)への参加、2020年には「夏のオープンラボ: 澤田華 360°の迂回」(広島市現代美術館 / 広島)に招聘されるなど、精力的な活動とともに評価・注目を集めています。

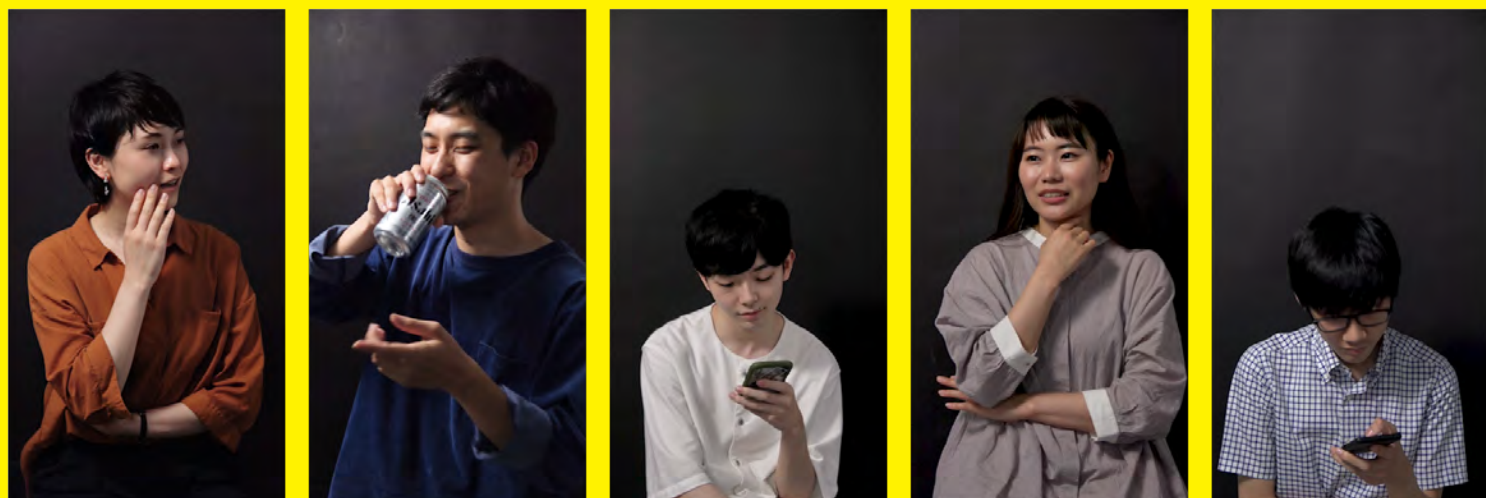
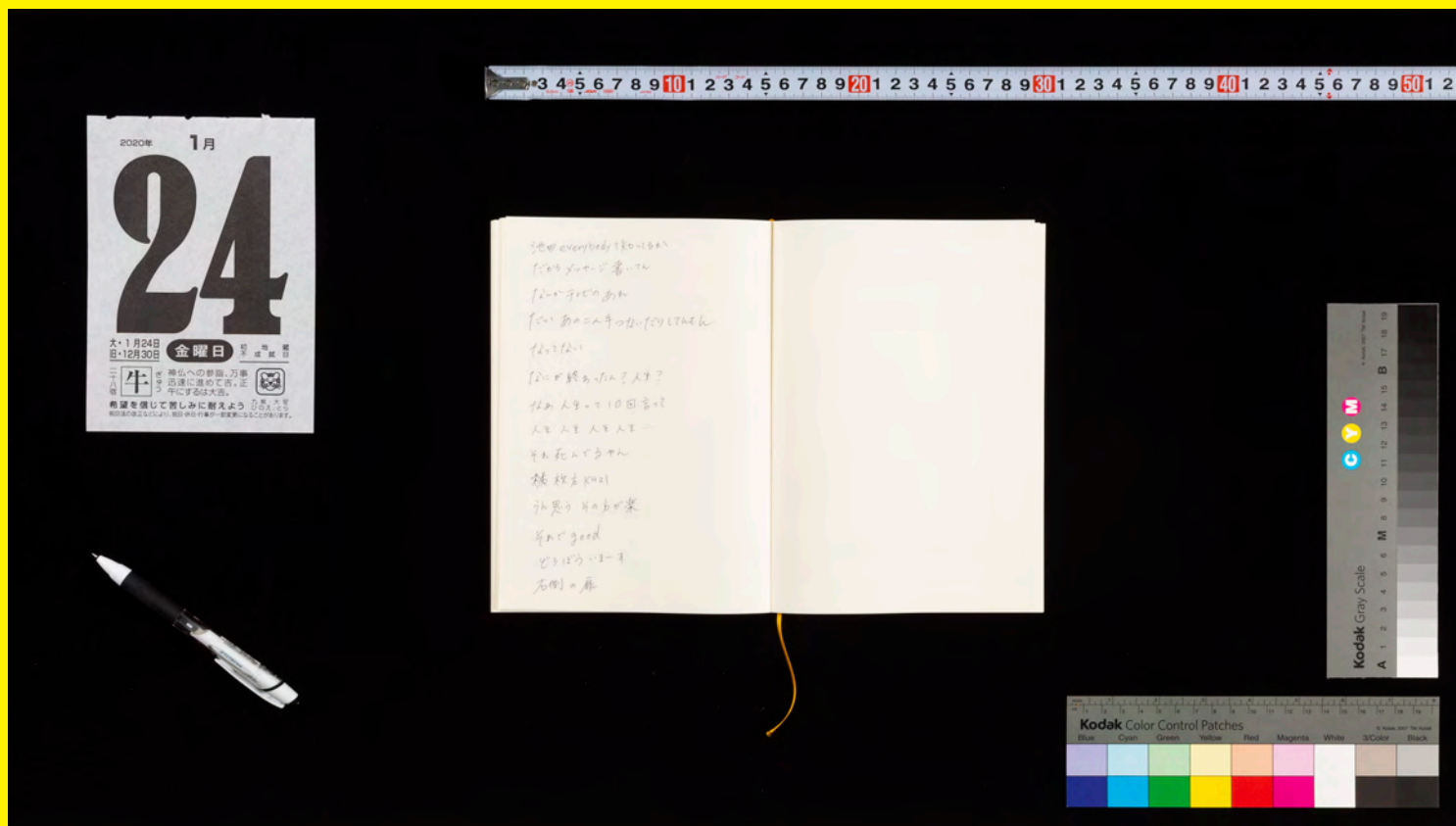
澤田は日常で中で、不確かなノイズとして認識してしまうものをエラーとして排除するのではなく、「不確かである」ことを起点として、分析・検証・解釈・想像の一連を作品として提示し、鑑賞者にそのプロセスを反芻させるかのような作品を展開しています。澤田の代表的なシリーズ「Gesture of Rally(ラリーの身振り)」は、「かつてどこかに実際に存在したものが写ってしまう」という写真の特性を前提に、写真(印刷物)に写った不明瞭な「何か」を「実際に在ったもの」として捉え、そこに「これは何か」という問いを発生させています。この問いの答えはSiriやwebによる検索、想像図の作成、果ては立体化などによって探求されますが、しかしその「正解のない誤読」が答えにたどり着くことはなく、「これは何か」という問いは、「では、これは何か」という問いに戻されてしまいます。

本展『避雷針と顛末』は、2020年の「夏のオープンラボ: 澤田華 360°の迂回」(広島市現代美術館 / 広島)での発表作品《避雷針と顛末》をもとに、一部に新制作を加えて再構成したものです。本作品でも澤田は、不明瞭で不確かな「何か」を起点に、検証・誤読・想像の一連の堂々巡りを作り出していますが、その起点をこれまでの実存の証拠としての「写真」ではなく、より実態のない「会話」においている点にこれまでとの違いがあるといえます。

本作品は澤田が街中や乗り物の中などで耳にする周囲の喧騒や会話の断片といったノイズから、特にハッキリと聞き取れた(認識できた)言葉をメモに書き写すことから始まっています。その結果、メモには誰かと誰かの会話の断片や、何かのアナウンスの一部かもしれない言葉が脈絡なく記録され、澤田はこの断片をもとに、Siriやwebによる検索などの検証を進めていきます。さらに、澤田はこのメモをもとに、知人に「それぞれの言葉が対話として成立するシチュエーションを想像し、その行間を繋げるセリフを加筆した『台本』の制作を依頼し、出来上がった9本の台本をもとに、役者に依頼して制作した9本の映像インスタレーションを作品の一部に組み込んでいます。いわば寸劇のようなその(再)対話は、順番や解釈、あるいは言葉の抑揚や小道具の存在によって鑑賞者が認識する意味や情報の性質が変化していくことにあらためて気づかされます。

これまでの作品制作において澤田は、写真という視覚情報、いわば他者と共有可能なノイズを出発点に作品を展開させるとともに、その検証のプロセスにもAI(Siri)といった匿名的な総体を導入するなど、可能な限り固有の主観が混入するのを回避していたといえます。しかし、本作で澤田は「自分自身がハッキリと聞き取れた」言葉をもとに、その解釈の行末に「他者」を加える方法を採用入れています。つまり、本作において澤田は、いわば曇天の空の下で自らを「避雷針」として、そこに呼び込んだ落雷の軌跡を観察する(観察させる)とともに、その落雷が何を引き起こし、どのような顛末を見せるのかについてをも観察の対象に加えているといえます。それはまた、「正解のない誤読」について思考を巡らせる鑑賞者をも避雷針として、それぞれが「問い続ける」、「想像し続ける」ことを促します。

ギャラリー・パルクでは2018年以来4年ぶりの個展であり、移転後初の展覧会でもあるとともに、澤田にとってもこれまでと異なるアプローチによって展開する本展により、鑑賞者のみなさまにも「避雷針」として何かを掴み寄せ、その果てのない顛末を想像していただければ幸いです。



本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 避雷針と顛末 Lightning Rods and Circumstances

出展作家 澤田 華 Hana Sawada

会 期 2022年 4月 2日[土] — 4月 29日[金・祝] 13:00~19:00 水・木曜日休廊

料 金 無料

主 催 ギャラリー・パルク

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]

移動により住所変更 〒602-8284 京都府京都市上京区白英町287 堀川新文化ビルディング 2階 **MAP**

アクセス ○地下鉄丸太町線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分 ○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分 ○京都市バス 9番・50番(JR京都駅から約22分)・12番(阪急丸太町駅から約15分)・67番(阪急大宮駅から約12分)系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分 ○駐輪場・駐車場(2台) 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください

問い合わせ Gallery PARC 〒602-8284 京都府京都市上京区白英町287 堀川新文化ビルディング 2階
MAIL info@galleryparc.com HP www.galleryparc.com

【Artist Info】

澤田 華 Hana Sawada

<https://www.galleryparc.com/pages/artist/sawadahana.html>

【C.V】

1990 京都府生まれ

2016 京都精華大学大学院芸術研究科前期博士課程修了

主な展覧会

2021 「流れる景色、さまよう目」(京都精華大学サテライトスペースDemachi / 京都)

2020 個展 夏のオープンラボ「澤田華 360°の迂回」(広島市現代美術館 / 広島)

— 「踊り場と耕作」(ホテルアンテールーム京都 / 京都)

— 「楽観のテクニク」(BnA Alter Museum / 京都)

2019 個展 「車窓のそとは既に過去」(波止場 / 愛知)

— 個展 「『見えないボールの跳ねる音』」(MEDIASHOP gallery2 / 京都)

— 「Roots Routes Travelers」(成安造形大学【キャンパスが美術館】 / 滋賀)

— 「船橋わたす2019」(奈良県立大学 / 奈良)

— 「あいちトリエンナーレ2019」(愛知県美術館ギャラリー / 愛知)

— 「テキサス・ヒットがやってくる」(Lights Gallery / 愛知)

— 「フラッシュメモリーズ」(The Third Gallery Aya / 大阪)

— 「Identity XV -curated by Meruro Washida-」(nichido contemporary art / 東京)

— 「timelake08」(巡回展、高松・大阪・札幌・東京)

— 「凍りつく窓:生活と芸術」(CAGE GALLERY / 東京)

— 「群馬青年ビエンナーレ2019」(群馬県立近代美術館 / 群馬)

2018 個展 「見えないボールの跳ねる音」(Gallery PARC / 京都)

— 「showcase #7 写真とスキャン PHOTO & SCAN」(eN arts / 京都)

2017 個展 「ラリーの身振り」(KUNST ARZT / 京都)

— 「1f loor2017 合目的的不毛論」(神戸アートビレッジセンター / 兵庫)

— 「場 | BA」(愛知県美術館ギャラリーJ室 / 愛知)

— 「写真新世紀展2017」(東京都写真美術館 / 東京)

— 「未来の途中の星座-美術・工芸・デザインの新鋭9人展」(京都工業繊維大学美術工芸資料館 / 京都)

— 「群馬青年ビエンナーレ2017」(群馬県立近代美術館 / 群馬)

2016 「Reproduction」(成安造形大学【キャンパスが美術館】 / 滋賀)

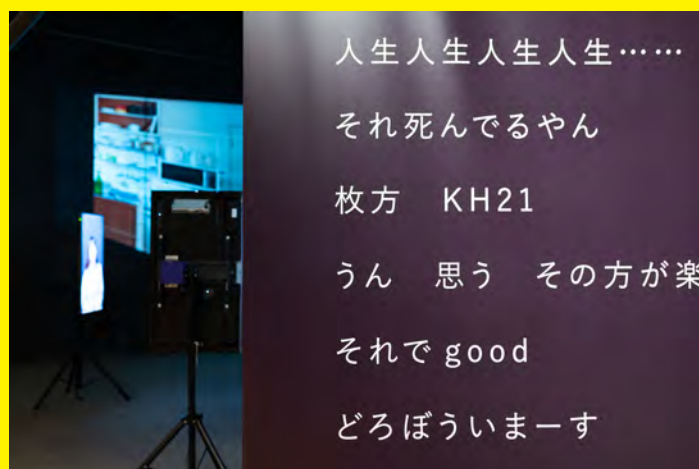
2015 個展 「[C][A][T]」(kara-S / 京都)

2014 個展 「Second contact」(KUNST ARZT / 京都)

おもな受賞

2019 群馬青年ビエンナーレ2019 奨励賞

2017 写真新世紀2017年度 [第40回公募] 優秀賞



2020年に広島市現代美術館にて開催された
「夏のオープンラボ 澤田華 360°の迂回」の展示風景

撮影:花田ケンイチ

展覧会情報やラボログなどは下記よりご覧いただけます

https://www.hiroshima-moca.jp/exhibition/summer_lab_2020/